

# 行政視察報告書

令和元年7月31日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 馬越 裕正 ⑩ 議員 ⑩  
議員 ⑩ 議員 ⑩  
議員 ⑩ 議員 ⑩

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

## 記

### 【1】 鹿児島県 瀬戸内町

住 所	鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津23番地
電 話	0997-72-1072
視察案件	チームせとうち「我が事・丸ごと」支えあい事業について
期 日	令和元年7月16日(火) 14時00分から15時00分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	瀬戸内町役場 委員会室
概 要	視察の目的 瀬戸内町は有人島が3島ある人口約9千人の自治体である。瀬戸内町では、厚生労働省に「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部が設置され、平成29年4月に「我が事・丸ごと」の地域づくりを推進する体制を市町村の役割と位置づけるなどの社会福祉法の改正が行われたことにより、チームせとうち「我が事・丸ごと」支えあい事業を推進している。笠岡市においても地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の構築は重要であり、目的達成の重要な要件でもある。瀬戸内町の活動状況等を検証・考察し、笠岡市にも反映できないか、との目的をもって視察に訪れた。

	<p>瀬戸内町の現状</p> <p>瀬戸内町 ”我が事 丸ごと “ささえ愛宣言</p> <p>町民の力を集結して地域づくりに“我が事”として取り組み、すべての町民を“丸ごと”包み込み、ひとりの孤立も生まない、支え合い、つながりあえる心豊かな瀬戸内町を目指すことを宣言しています。</p> <p>瀬戸内町は、共生社会構築のため“我が事・丸ごと”支え愛地域づくり推進会議を立ち上げ推進会議には3部会あります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 相談支援部会は一人ひとりの「暮らし」に寄り添う支援を行い、取組として包括的相談支援体制の機能強化、情報の収集・共有と事例を通じた支援のノウハウの蓄積、支援制度の連携強化、意識啓発人材育成及び確保等行っている。</li> <li>② 住まい部会は、一人ひとりの「住まい」の安心を確保に取り組み、大学との連携による空き家調査、集落内の空き家改修（地域提案型空き家活用事業）を行っている。今後の展開として、要援護者（住宅確保配慮者）への対応を進める。</li> <li>③ しごと部会は、一人ひとりに応じた多様な「働く」を支援している。事業所・業界団体、農業水産業者・団体等関係機関と連携し、課題である職場の確保・創出、求職者と仕事のマッチング、子育て、介護との両立、高齢者の多様な人材活用等解決に向けた取り組みの推進を行っている。雇い入れたい企業、瀬戸内町役場、働きたい相談者の3者が連携・協力・調整し人材確保の実現を図っている。</li> </ol> <p>視察を終えて</p> <p>瀬戸内町では、一人ひとりの生活上の困難や生きづらさ、その背景にある地域課題を、住民誰もが「我が事」として捉え、その解決を図る地域づくりに主体的に参画することで、だれにとっても居場所と出番（役割）がある、つながり合い、支え合う、豊かな「地域共生社会」の実現をめざしている。包括的支援体制と言いつつ、行政の縦割りの支援に成りがちであるが、一つの協議会としての役割が明確に機能しているようであった。</p> <p>島の保健室事業では、有人島3島に保健師を常駐させていて、すべての困りごと解決の重要人物であり、島の看護師でもある。笠岡諸島には、各島にすでに診療所は設置されている状況であるから、何時でも看護師を派遣できると思う故に、早急に取り組むべきと考える。中心としての役所と同時に、例えば社協とかと積極的に関わる組織の存在が大切である。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【2】 鹿児島県 瀬戸内町

住 所	鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津 23 番地
電 話	0997-72-1072
視察案件	瀬戸内町みなと祭り舟こぎ競争について
期 日	令和 元年 7月 16日 (火) 15時00分 から 16時00分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり

訪問施設	瀬戸内町役場 委員会室
概 要	<p>視察の目的</p> <p>瀬戸内町では、毎年8月に港まつりを行っています。金曜日には前夜祭、土曜日には相撲大会・パレード・島唄大会などが開催され、最終日には、海上パレード、舟こぎ競争、八月踊り、最後は花火大会が行われます。特に舟こぎ競争では、100組以上の参加者があり、半日にも及んで競技を行っている。笠岡市金浦地区で行われている「おしぐらんど」は、近年参加者も少なく、後継者不足になっている現状がある。如何に多くの地元民に参加して戴くためには、何が必要か他町の状況、方法、工夫等を確認し、笠岡市に何か反映できないかとの目的をもって視察に訪れた。</p>
	<p>瀬戸内町の現状</p> <p>瀬戸内町では、8月に港まつりの一環として最終日に舟こぎ競争を行っている。この日は9時から海上パレード、10時から16時まで舟こぎ競争、18時から20時まで八月踊り、20時30分から21時30分まで花火大会があり、舟こぎ競争が中心になっています。</p> <p>種目は、子ども会対抗レース（小学生の部・中学背の部）集落対抗レース、同窓会・女子・オープン対抗レースがあり、特に近年、同窓会対抗・女子対抗レースが盛り上がっているとのことです。当初は、部落対抗レースから始まったのであるが、少子高齢化のため、部落対抗レースの参加チームは、年々少なくなって来ているとのことであった。</p> <p>各学年による同窓会対抗レースが盛り上がり、前日からの場所取り等あり、バーベキューなどしながら応援をし、運営・組み合わせ等同窓会の学年が、順次引き継ぎで行っているとのことである。</p>
	<p>視察を終えて</p> <p>人口8千人の瀬戸内町において、これほど多数の参加者があり、続けてこられたのには、色々なアイデア、努力が有ったからだと思う。当初は集落対抗から始まっているが、小学校・中学校・女子対抗競技等は考えつくものがあるが、特に感心したのは同窓会対抗があることである。一日中の競技会であり、またその後の花火大会等充実した日となり、楽しみな一日となるであろうことが想像できる。笠岡市もイベントをバラバラに行うのではなく、まとめて行うことを考えると良いのではないか。行政が中心で行うのではなく、地域住民の盛り上がり参加意識が大切であると感じた。</p>
	添付書類

【3】 鹿児島県 奄美市

住 所	鹿児島県奄美市名瀬幸町 25-8
電 話	0997-52-1111
視察案件	「地域に根ざしたふるさと教育」について
期 日	令和 元年 7月 17日 (水) 10時00分 から 11時30分 まで

応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	奄美市役所 委員会室
概 要	<p>視察の目的</p> <p>奄美市は、小中一貫連携教育をすでに行っていて、地域の中で教え、学ぶ教育文化のまちづくりを基本目標に、地域に根ざしたふるさと教育を行っている。</p> <p>笠岡市も小中一貫連携教育を進めようとしていることから、奄美市の活動状況等を検証・考察し、笠岡市にも反映できないか、との目的をもって視察に訪れた。</p> <p>奄美市の現状</p> <p>奄美市は、平成 18 年 3 市町村が合併した、人口約 4 万人の自治体であるのに、小学校は 21 校、児童・生徒数は、7 人から 650 人の学校があり、中学校は 12 校、4 人から 314 人の学校があります。小中隣接校では連携型一貫教育が行われています。市長・教育長ともに一人でも児童・生徒がいる間は、小中学校はなくしないと明言しているとのこと。</p> <p>地域に根ざしたふるさと教育（あまみの子どもたちを光に）の学校教育重点事項として</p> <p>① 新しい時代を拓く「あまみっ子」（確かな学力の定着・向上）</p> <p>「あまみっ子」すくすくプラン、学力向上フォーラム、小中一貫教育の推進、「土曜授業」の実施、あまみ授業セミナー等</p> <p>② 心豊かで強い「あまみっ子」（豊かな心の醸成）</p> <p>中一不登校未然防止アクションプラン、花づくり・花いっぱい運動・歌声の響く学校づくり、伝統文化の伝承・島口伝承活動の推進等</p> <p>③ たくましい体の「あまみっ子」（健やかな体の育成）</p> <p>「一校一運動」の実践、幼児期・小学校期における「運動遊び」指導の充実等</p> <p>④ 島を愛する「あまみっ子」（郷土を愛する心・異なる文化を尊重する心の醸成）</p> <p>世界自然遺産登録に関する学習内容の充実、ふるさと体験留学、島口・島唄の伝承活動の充実、奄美市中学生ひかり議会事業等 を柱とし、取組を行っています。</p> <p>奄美市には、平成 30 年度から里親留学制度がスタートし、平成 30 年度は 8 名、今年度は 7 名の受け入れが決まっています。最近では親子での留学希望者が増えている状況とのことであった。</p>
	<p>視察を終えて</p> <p>奄美市市長・教育長は一人でも子供たちがいる間は、学校を閉鎖しないと明言し、子どものことを第一に考えていることが明確であり、市民も安心して子育てができていると感じた。学力向上はもちろんであるが、たくましい体づくり「一校一運動」の推進、島口・島唄の伝承、奄美市中学校ひかり議会など、参考になる取り組みが見られた。</p> <p>里親留学制度の取組は、非常に興味深いものがあつた。親子での留学制度ならば、より子供の定着が図れると感じた。また、トップの基本的指針が、ゆるがないことが一番であると感じた。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

令和元年7月16日

瀬戸内町



令和元年7月17日

奄美市

